

26th APLAR for Rheumatology Congress 2024 in Singapore 参加報告

東京科学大学 発生発達病態学（小児科） 金子修也、林祐子、清水正樹

2024年8月21日から25日までSingaporeで開催されたAPLAR Congress 2024に参加してきました。Singaporeは一年を通して温暖で、平均気温は30度前後と湿度が高い熱帯気候です。この時期はスコールも見られますが、幸い学会期間中はほとんど雨もふらず、学会参加には大きな支障はなく快適に過ごせました。Singaporeは観光地としてもよく知られており、学会参加者以外にも日本人を含め多くの観光客が訪れていました。我々も、シンガポールのシンボルであるマーライオンを訪れ、その壮大な姿とマリーナベイの美しい風景に感動しました。また、「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」にも立ち寄り、巨大なスパーザリーや豊かな植物園を楽しみました。



図1 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ

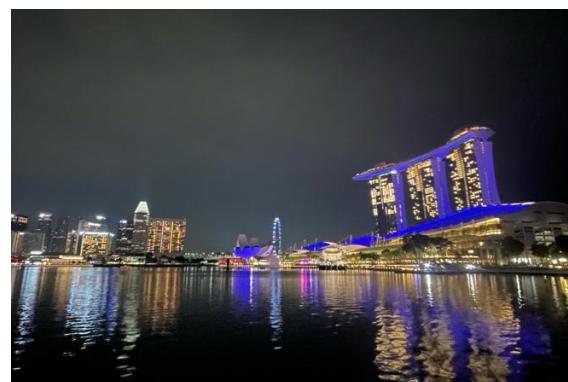


図2 Singaporeの夜景

現地への小児科の日本人参加者は、東京科学大学の金子、林、清水の3人でしたが、Singaporeでの開催ということで膠原病内科や成人診療科の日本人参加者は多数見受けられました。学会参加費は条件により変わりますが約700USDです。Openingの前にはSpecial Interest Group (SIG)がそれぞれの専門に分かれて行われ、Paediatric SIG meetingには日本から金子、林、清水が参加し諸外国の状況について会議を行いました。学会や講演に現地参加が難しいtraineeに対するビデオプログラムの作成など、若手の教育にも注力していく方針がよくわかりました。



図3 APLAR Congress エントランス

会場では、金子が「Clinical significance of serum cytokine profiling for differentiation of underlying diseases of cytokine storm syndrome」、林が「Clinical outcomes after SARS-CoV-2 infection and vaccination in patients with pediatric rheumatic diseases」、清水が「Successful treatment with anifrolumab for refractory cutaneous lupus lesions in pediatric systemic lupus erythematosus」について、それぞれポスター発表を行いました。メインフロアでは軽食とは言えないほどガッツリした食事（シンガポールの特産などを中心に）がバイキング方式で3-4回/日提供されました。また、来場者が自由参加で色を入れていき一枚の布絵を作り上げるようなイベントや、日本の団体による茶道体験教室も開催されており、行列ができるほど人気を博していました。講演や発表以外にも来場者を楽しませる工夫が凝らされていることを感じました。



図4 会場の free-painting への参加の様子

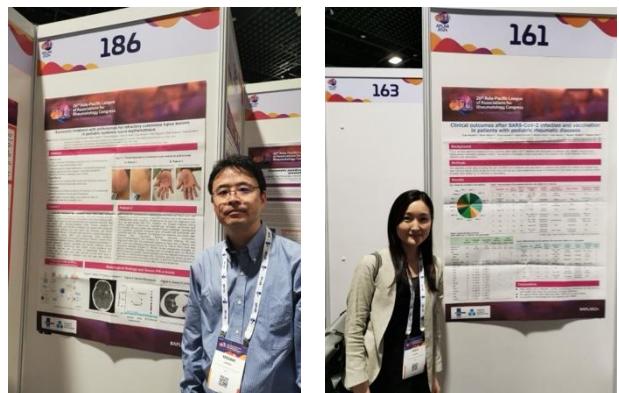


図5 発表会場での様子

メインホールで行われた小児科関連のセッションは8月23日に行われた「Paediatric Rheumatology-Kidneys, Blood Vessels and Skin」と「Recent update in paediatric rheumatic diseases」の2セッションで、各国の専門家から最新の知見や研究結果などが報告・共有されました。アジア諸国での小児リウマチ性疾患に対する治療の現状を知ることができ、非常に勉強になりました。また、成人領域についても新規治療薬や新たな疾患概念についてなど様々な最新のトピックに関する講演があり、大いに議論が盛り上がっていました。



図6 メインホールの様子①



図7 メインホールの様子②

2025年は9月3-7日まで福岡で開催されます。まだ国際学会への参加経験がないPRAJ会員の先生方も、ぜひ最初の一歩として参加してみてください。